

## 八尾市幼稚園審議会答申案に対する市民意見について

八尾市幼稚園審議会では、答申策定にあたり、八尾市市民参画と協働のまちづくり基本条例第12条の規定に準じるとともに、「市民意見提出制度に関する指針」に基づき、答申案を公表し、市民意見提出制度（パブリックコメント）を実施しました。それに対する答申案作成時点での審議会の考え方を整理しました。

### (1) 意見募集期間

平成22年4月1日（木）～平成22年4月30日（金）

### (2) 提出方法別の提出人数及び意見数

提出方法	提出人数（人・団体）	意見件数（件）
直接持参	0	0
電子メール	2	3
FAX	16	34
郵便	1	1
合計	19	38

複数項目にわたるご意見をいただいた場合は、関連項目ごとに分割して整理しました。

また、ご提出いただいたご意見は、原文のままの掲載を基本としつつ、趣旨を損なわないように要約または表現の変更をさせていただいたものもあります。

### (3) 提出された意見・提言の内容及び審議会の考え方

番号	項目	ページ	行	意見・提言箇所	意見・提言内容	審議会の考え方
1	はじめに	1	11 ～ 14		八尾市における子育て状況、親の課題などの分析はそのとおりと考えます。	子どもを取り巻く環境が大きく変化し、幼稚園教育に求められる役割も変化してきていることは、答申案1ページで示したとおりであります。
2	第1章 八尾市立幼稚園の 現状について	2～4		八尾市立幼稚園の 現状について	少子化や保護者ニーズの変化に伴い園児数が減少し、幼稚園をめぐる状況が厳しいと認識できる。また、改善に向けての方策が必要であることも否定しない。しかし、教育現場から見れば、公立幼稚園にかかる経費や効率面ばかりが強調される記述になっていることが残念に思われる。八尾では人権尊重を基盤に子ども一人ひとりを大切に育てる営みが続けられており、他市に比べ手厚い施策が行われてきたことを八尾の教育に携わるものとして誇りに思っている。公立幼稚園においても、地域に根ざした取り組みが、保護者の期待に添うものとして評価されているからこそ、公立幼稚園にこだわる保護者も多い。「現状」というならば、八尾の幼稚園教育が果たしている役割についての記述も必要ではないか。	市立幼稚園がこれまで幼児教育で果たしていることや大切にしていることは、審議会でも認識しており、それらを踏まえたうえで、現在、市立幼稚園が置かれている現状をまとめたものです。
3	第2章 1 集団や園児数の 課題について	6	10	(3) 望ましい園児 数・学級数 ① 1学級の人数に ついて	「20～35人が望ましい」について、基本的にはそのとおりだと思う。ただ、4歳児の場合は多くとも30人以下であるべきだ。3年保育が出来ない現状において子どもたちは入園後、初めて集団生活を経験するのだから、一人の教師が30人を超える4歳児を抱えることは、丁寧な関わりが困難。実際に、園長・養護教諭を含め、何人もが支援に入らなければ対応できない例もある。小学校1、2年で35人学級を実施していることを考えれば、低年齢ほど手厚い教育が必要だ。	4歳児の定員につきましては、審議会においても望ましい1学級の人数での審議において議論しました。それらの議論の総括として「1学級の人数は20人から35人が望ましい」とまとめたものです。また、八尾市立幼稚園の1学級の定員（上限）は国の幼稚園設置基準に基づき35人となっております。
4	第2章 1 集団や園児数の 課題について	7	26	(3) 望ましい園児 数・学級数 ③ 幼稚園規模等 について	田舎で子供が少人数の中で生活するというのは、子供にとって望ましくない集団規模の人数の中で育つということと書かれているが、それはまちがっており、人数確保の為にこじつけである。よって4ブロックに分けるとか、統廃合を行うより、子供達が地域の中で育つことの方が大事である。	近年の少子化の中で、園児にとって教育上望ましい集団活動が日常的に実践できる教育環境の確保が大切であり、望ましい園規模を維持するための方策として、統廃合等が必要であると提案しております。

5	第2章 2 私立幼稚園、公 私立保育所、 小・中学校との 連携について	8	1 4	(1) 現状と課題及 び連携の必要 性	<p>「幼・保・小・中の連携については、地域によって違いはあるものの、その必要性を感じながらも進んでいない状況にある」について</p> <p>たしかに、全体として連携が進んでいない現状があるが、その原因を分析することなしに具体的な対策は講じられない。</p> <p>今、小学校現場は多忙を極めており、山積する課題への対応に追われている。体験入学等の取組みは多く行われているが、日常的な交流や、学校全体で連携の必要性を確認できるような場を設定するのが困難な状況だと思われる。就学前の子どもたちの豊かな育ちが小・中学校につながることを思えば、連携の必要性は言うまでもないが、取組みを推進するための環境づくりが必要だ。学校園がまず、「あれもこれも」ではなく、とりくむべき重点課題をさらに絞り込むなかで、連携の必要性を組織的にしっかり位置づけていくこと、管理職や担当者の意識改革、コーディネーター役（行政も含めた）の役割強化などを進める必要がある。</p>	<p>幼・保・小・中の連携を進めるにあたっては、ご指摘の点については、当然必要であると考えております。そのためには、幼・保・小・中を含めた合同研修の実施等により、理解と認識を深めることが重要であり、行政がその仕組みづくりの構築に取り組むべきであると提案しております。</p>
6	第2章 2 私立幼稚園、公 私立保育所、 小・中学校との 連携について	8	1 5	(1) 現状と課題及 び連携の必要 性	<p>園児が減少する中、統廃合は仕方ないことだと思いますが、教育環境を良くするためにも下記の事を考えていただきたく思います。</p> <p>「必要性を感じながらも進んでいない状況である」とあるが、進んでいない現状は何なのか。何が必要なのかを検討していただく為にも、9ページ6行目にもあるように、教育委員会が行政として各機関とコーディネートして進めていただきたい。また各機関に関わる者の、連携の必要性を強く認識する為の研修も大切なのは！</p>	
7	第3章 1 効率的・効果的 な運営につい ての方策	1 1	4	1 効率的・効果的 な運営につい ての方策	<p>八尾市立幼稚園のあり方についての提言に賛成します。</p> <p>八尾の市立幼稚園の経費のうち94%が人件費ということに驚いた。他市に比べて、また私立幼稚園と比べても保育料の格差も気になる。</p> <p>私自身は子どもを保育所に入所させられたが、保育所の慢性的な待機児童の多さにもっと対応してほしい。当事者にはお気の毒とは思いますが、保育所もほとんどが民営化されたし、子どもは市立幼稚園以外にもっとたくさんいます。また小学校の留守家庭児童の保育料なども含め子ども全体にかける経費の使途をバランスよく分配できるよう考えてほしい。</p>	<p>経費の使途をバランスよく配分できるようにとのご意見については、審議会としましてもその必要性があると考えております。そのためには、教育委員会が、市立幼稚園にかかる運営経費や保育料等についての課題も踏まえながら、八尾市の子どもたちの健やかな成長に資するよう幼児教育の更なる充実に向けて検討することが必要であると考えております。</p>
8	第3章 1 効率的・効果的 な運営につい ての方策	1 1	4	1 効率的・効果的 な運営につい ての方策	<p>現在はもちろん将来的な子ども数の減少傾向を見据えて幼稚園の統廃合を進めるべきだと思う。すでに2クラス維持するにも少なすぎる予測も出ている。1クラスの人数は答申案の意見にもあるように「子どものために」も20人～30人の集団生活をさせてあげるべきだと思う。</p> <p>保育所機能をもつ幼稚園にするなど現代のニーズを広く調査して、古いものにとられない保育環境を考えてください。</p>	<p>ご意見のように、適切な集団の大きさでの集団生活は必要であると考えております。また、幼稚園と保育所の機能を併せ持った一元化施設にしたりするなど、教育委員会が、将来的なビジョンを示しながら進める必要があると考えております。</p>
9	第3章 1 効率的・効果的 な運営につい ての方策	1 1	4	1 効率的・効果的 な運営につい ての方策	<p>現在、幼稚園の園児は地域の大人との交流を通じて、大人の優しさにふれ、豊かな体験活動をしています。今回の統廃合の案では園児が自分が住む地域の福祉委員会の大人との交流が難しくなり、園児の心豊かな成長がはかれなくなるのではと心配です。統廃合の考えではなく、しかも八尾市の財政面の負担軽減を考慮した考えを提案します。</p> <p>「小規模の幼稚園を小学校の附属幼稚園的な位置づけにする」</p> <p>小規模の幼稚園を同じ地区の小学校に移して小学校の余裕教室で保育し、課題となっている幼児教育と小学校教育との円滑な接続のための具体的な方策とする。</p> <p>文部科学省と厚生労働省の報告書にある「幼稚園と小学校の子ども同士や教員の交流をはかり、幼児・児童に対する一貫性のある教育を相互に協力・連携して行う必要がある」の先進的な試みとしていくつかの地域で実践する。</p> <p>なお、園長については、小学校の校長が兼務し、幼稚園の校務員、警備員についても、小学校の校務員、警備員が兼務するなどによって財政面の合理化をはかる。</p>	<p>ご提案につきましては、幼小連携や財政的負担軽減の点で、効果があると考えられます。しかしながら、園児にとって教育上望ましい集団活動が日常的に実践できる教育環境の確保にならないのではと考えております。</p>

10	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	5	1 効率的・効果的な運営についての方策	園児数の少ない園では、集団での教育について問題が生じている。とありますが少ないとは何名のことを言っているのか、その点が不明なので意見も出しにくいのですが、園児数の減少がそれ程とはとても思えないのですが、詰め込みすぎより少ない目の方が、子どもたちにとっては豊かな保育を受けることが出来るのではと思います。そして教育の場とにかく効率、効果ということを中心に論じるのは間違っていると思うのですが。	審議会では、集団での教育効果の視点から、望ましい園の規模について審議を行い、1学級の人数は20人から35人、1園の学級数は各年齢で複数学級あることが望ましいとしました。この望ましい園規模を下回る園においては、集団での教育について課題が生じていると考えております。また、市立幼稚園にかかる経費は八尾市の予算（税金）で賄っているため、限りある財源の中で教育にかける予算を有効に活用することは非常に重要であると考えております。
11	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	10	1 効率的・効果的な運営についての方策	経費のことを先に出すとやめるしかない方策になる。現場の先生の意見をどのように聞かれているのかその内容を示してほしい。19園が多すぎるのではなく小学校に幼稚園があることを市として他市より自慢できるのではないですか。	審議会では、各種団体や市民をはじめ、幼稚園や保育所の代表者が委員として就任いただいております。市立幼稚園の現状や課題等についての意見をいただいております。その中で、小学校に隣接していることの良さもありますが、園児数が減少し小規模の園が増えてきている現状の中で、幼稚園における集団での教育がいかに重要であるかということを議論しました。
12	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策 2 教育内容の充実についての方策	11 3	17 20	①統廃合や再編の必要性について  (2) 保護者や地域との連携について	幼稚園児を持つ母親ですが、確かに今の現状は年長、年少、各1クラスですが、その中でもマイナス面だけではないと思います。少子化の為ひとりっこが多い中、年長児と年少児の交流が盛んになり、兄弟・姉妹のような関係の中、思いやり、また目標にしたりととてもいい関係が保たれています。地域との連携についても必要性がいわれている中、私達の地域では特に福祉委員の方との連携がすばらしい中、統廃合ともなるとそれが難しくなると思います。年長児の娘でさえ地域の方との交流のおかげで、名前や顔を覚えており親が驚かされます。これは小学校そして大人になっても財産になるものだと思います。統廃合についてはマイナス面が多々あるように思います。そして地域との大切な連携が出来なくなることが、とても心配に思います。	小規模の園でも工夫した保育が行われており、その良さを否定しているものではありません。しかしながら、その一方で、近年の少子化の中で、幼稚園にはより多くの幼児と出会い、人間関係を構築するなど、様々な経験ができる環境が求められていることから、幼稚園における集団での教育の重要性について議論しております。今後、園児数が減少し続けることが予測される現状において、園児にとって教育上望ましい集団活動が日常的に実践できる教育環境の確保が大切であり、望ましい園規模を維持するための方策として、統廃合が必要であると提案しております。
13	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について	道を子どもと歩いていると、年輩の方が数人、声をかけて下さいます。子どもに聞くと、幼稚園の行事で知り合った、地域のおばあちゃんとのこと。核家族で親戚も近くにいない私たち家族にとって、子どもたちが地域の方とあいさつをかわし、見守られて成長していることを痛感しました。 今回の案では、地域との交流が薄くなり、園児の取り巻く環境さえも変化し、心豊かな成長が懸念されます。統廃合ではなく、違った形で財政軽減策を考慮していただきたいと提案します。	また、地域との連携については、その大切さや必要性についても認識しており、統廃合しても広く地域との関わりは必要であると考えております。 地域に支えられての市立幼稚園であることは言うまでもありません。しかしながら、市立幼稚園の園児だけが地域の子どもではなく、在宅や公私立の幼稚園、保育所等を問わず、就学前のすべての子どもたちを地域として守り育てることが必要と考えております。
14	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について	私には、7歳と3歳の2人の子どもがおり、7歳の子は住んでいる地域にある市立幼稚園出身です。子どもをその幼稚園にと決めたのも、私立より公立の方が外でのびのびと遊ばせる事ができ、地域の方達との交流がもてるからです。成長段階の一番大事な年齢の時に、少人数だからこそ可能な、園全員の先生方に見ていただけ、親も自分の子ども以外の子ども達にも声をかけ、情報交換ができ、伸び伸びと過ごさせる事が出来ました。在園中には小学校との交流、歩いての送り迎えによって近所の方々に声をかけてもらえ、今年から小学校へ通うようになった今も安心して通学できています。このすばらしい環境で、下の子もこの幼稚園へ通園させたいです。一番大事な成長段階に、地域の方達との交流を通して、心穏やかな子に育つきっかけでもあるので、どうかよろしく願いいたします。	なお、審議会では、個別の園の方策については審議しておらず、市立幼稚園全般の課題と方策について審議したものであります。

15	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について	<p>今、幼稚園に通っている子と2年後に入園予定の子を持つ母親です。今現状各1クラスではありますが、幼稚園での年長と年少の交流がさかんな様で、家庭でも年長さんの名前がよく出てきたり、生活面でも年長さんにいろいろ教えてもらったりしていたので子どもにとってすごく良かったと思います。</p> <p>地域の福祉委員の方との交流会でも、おじいちゃん、おばあちゃんに教えていただいた遊びを喜んでしています。</p> <p>私自身も人数が少ないですが、他の保護者とのつながりも出来、子育ての相談にもなってもらっています。下の子ども今の環境の中で幼稚園生活が送れば良いなと思っています。</p>	
16	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について	<p>基本的に反対です。それより子どもの数が少なくなってきたのなら、定員を減らして、ゆき届いた保育をしてほしいです。地域に小さな子どもたちの心のよりどころとなる幼稚園の統廃合には反対です。</p>	
17	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について (7)短期的な対応	<p>上の子ども住んでいる地域にある市立幼稚園に通っていたので、下の子ども地域に密接した同じ幼稚園に通園させたいです。自宅より遠くなると、子どもを通わせるには危険が多くなる為、歩いて通わせる事が出来ません。子どもが増えることは、いい事かもしれませんが親としては、先生の目の届く範囲で生活させたいと願います。よろしくお願ひいたします。</p>	
18	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について (7)短期的な対応	<p>地域内にある市立幼稚園は地域の方々との結びつきが強い園だと聞きます。地域内の市立幼稚園に通うことで地域の方々とおふれあう機会がたくさんあると思います。子どもたちにはそういう体験をさせてあげたいので、そのような幼稚園を今のまま存続させてください。よろしくお願ひ致します。</p>	
19	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について (7)短期的な対応	<p>地域にある市立幼稚園は、同じ校区内に残してほしいです。その市立幼稚園卒園の子どもと来年入園予定の子どもがいますが、その市立幼稚園は子どもが少ないですが、少ないなりにとっても良い所がたくさんあるし、すばらしい幼稚園です。子どもたちは異年齢の子たちとも、たくさん関わりを持てます。保護者も先生方も同じです。また、その幼稚園は地域の方々ともたくさん色々な交流をしています。小学校、中学校、保育所、高校などです。近所づきあいが少なくなっている中で、このような取り組みは小さい子どもを持つ親としてはとても安心できるものになっています。また、小学校のすぐ近くということで、卒園した子どもたちが入学時に直面する登下校時の不安も、幼稚園の2年間登園することで顔見知りの人ができたり、見慣れた風景などでいくらか軽減できるものだと感じます。</p> <p>子どもの人数などは関係なく、地域に密着した取り組みをしている「地域にある市立幼稚園」はこれからの子どもたちにも保護者にも絶対になくしてはならない幼稚園です。</p>	
20	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について (7)短期的な対応	<p>来年、3番目の子どもが住んでいる地域にある市立幼稚園入園予定です。今、その幼稚園も1クラスと少ないですが、地域の人との交流や小学校との交流も大切にしてくれているので、下の子どもその幼稚園で卒園させたいです。</p> <p>親同士の交流もでき、子育てで何度助けられたかわかりません。その幼稚園から卒園させてください。お願ひします。</p>	
21	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	11	17	①統廃合や再編の必要性について	<p>1ページ15行～18行の分析で、結果として統廃合・再編の必要性に行きつくことは問題あると思う。</p> <p>親の保育へのニーズが高まる中で公立保育所が統廃合されていく八尾の現状、もう少し親（市民）の立場で将来の八尾を背負っていく子どもたちへの財の投資は絶対に必要。親が預けやすい条件も含めて幼稚園のあり方そのものも含めて検討することが大事でないか。統廃合で行き場のなくなる子どもをうみ出さないためにも。</p>	<p>単なる統廃合にとどまらず、保育所ニーズの増加等にも対応できるように将来的なビジョンをもって、教育委員会が、市立幼稚園のあり方を検討されることが必要であると考えております。</p>

2 2	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	1 1	1 7	①統廃合や再編の必要性について	3歳児からの入園希望者を全員入園させる。(今、抽選かどうか、少し分からないのですが)	4・5歳児につきましては、現在は抽選なく全員入園できています。また、3歳児保育については、平成6年5月に出された「八尾市幼稚園問題協議会報告書」の提言に基づき、幼児教育を公私協調、協力体制のもとで取り組んでいくという方針で私立幼稚園にゆだねております。
2 3	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	1 1	1 7	①統廃合や再編の必要性について (ア) 短期的な対応 (イ) 中・長期的な対応	「短期的」「中・長期的」という文言はよく使用するが、非常にわかりにくい。例えば、短期的なというのは数年くらいか？国政レベルでは幼保一元化に向けてはかなりピッチが上がっているという情報もある。今後の展望として可能な限り具体的な時間を示してほしい。	「短期的」とは、望ましい園規模が維持・継続できず、地域内の幼児数の推移から、園児数の減少が顕著である園の統廃合を優先的に取り組む期間として、また「中・長期的」とは、幼保一元化等の将来的なビジョンを示して取り組む期間と考えております。今後の展望につきましては、答申後、教育委員会が策定する基本方針または、実施計画において示されると考えております。
2 4	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	1 1	2 5	①統廃合や再編の必要性について (イ) 中・長期的な対応	人口の問題で高層マンションや新築の家の建設地域で将来増加する幼児の具体的な対策がわかりません。	住宅開発等により、どの程度幼児数が増加するのかは、不確定な要素がありますが、当然ながら、住宅開発等による将来の幼児数の状況を十分考慮して統廃合を進める必要があると考えております。
2 5	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	1 2	1	②統廃合や再編を進めるにあたっての留意点について	①園区の見直しについて 見直しや廃止を考えるなら留意すべきことはたくさんあると思う。人権的な配慮も必要。十分慎重に。 ②統廃合について 現状を改善させるために、統廃合という方法を視野に入れるのはやむを得ないだろう。統廃合によって教育環境がより良くなり職場も活性化し、その結果子どもたちの教育が充実するのであれば、それでいい。しかし、今回の答申案では、その観点が希薄だ。例えば、現場から長年にわたって養護教諭全園配置を要望してきたが、未だ実現の糸口すらない。統廃合で園数が減少するのであれば、せめて養護教諭全園配置などを実現させてほしい。 統廃合によって、教育条件が豊かになる、施設も改善されるというのであれば保護者の理解を得やすいのではないか？	園区につきましては、園区によっては幼児数の差があること、また、現在はどの園も抽選なく入園可能であることから、保護者のニーズにより園区を弾力的に運用することや、自由に市立幼稚園を選べるよう園区を廃止することを提案しています。 また、統廃合を行うことで、園児にとって望ましい集団が確保できるだけでなく、教員にとっても望ましい集団の確保ができると考えております。 単なる統廃合にとどまらず、園児や保護者、教職員にとって充実した施設となるよう、施設の改善や通園手段の配慮等が必要であると考えております。
2 6	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	1 2	1	②統廃合や再編を進めるにあたっての留意点について	園児が減少する中、統廃合は仕方ないことだと思いますが、教育環境を良くするためにも下記の事を考えていただきたく思います。 留意点の中に子どもたちの教育環境をよくする為の、物的環境・人的環境の大切さを大前提としての統廃合や再編をしてください。 (ア) 園区について ・小学校区との連携の必要性を大切にされた園区の見直し。 (イ) 施設配置について ・園児数にあった園舎、施設の充実。(園庭が狭すぎると、十分に体を動かして遊べない等) ・人的環境における、養護教諭の全園配置。(子どもが安心して遊べるように) ・週に1回、小学校の給食を食べる 等 (ウ) 通園手段に配慮 ・安全面を十分配慮しての自転車置き場の設置。バス登園など。 ※統廃合することによって、魅力ある公立幼稚園をつくってほしい。	

27	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	12	19	③幼保一元化施設について	現在の社会情勢や親のニーズ等を考えれば、幼保一元化の動きはさらに加速されると思われる。幼稚園の統廃合と併せるならば、幼保の機能をあわせもつ施設をモデル的につくってみてはどうか。低年齢の子どもを中心に待機児童も増えており「保育所に預けられたら仕事をしたい」「保育所に預けられないので、育休を延長させた」という例も多くあるので、潜在的な待機児童もかなりいるはず。親の保育ニーズにも合う施設の実現をぜひめざしてほしい。 「行政の壁」「人の壁」という困難な問題もあるだろう。昨年度から、幼稚園と保育所との交流が始まったことは第一歩を踏み出したと言えるが、まだまだお互いの理解が深まるには時間がかかる。全体をひとつくりにして早急に事を進めると現場が混乱する。上記のようにモデル的に実施し検証しながら進めていくことが必要だ。 行政内での議論が十分に行われることも期待する。	幼保一元化につきましては、今後の市立幼稚園のあり方の方策のひとつとして提案しております。ご指摘のように幼稚園と保育所の制度や目的の違いから、現場の混乱や教育・保育の質の低下につながらないように、モデル的な実施についても審議会で意見として出ており、教育委員会が、幼保一元化を進めるにあたっては十分な準備と慎重な議論が必要であると考えております。
28	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	12	19	③幼保一元化施設について	将来的なビジョンをしっかりと持ち、準備をしっかり行ってほしい。準備もなく幼保一元化になったことで、現場の教師が戸惑うということは、子どもたちの教育環境にも影響を及ぼす。 年数をかけてでも、幼・保教師が、互いの保育・教育を認めあえる場を提供し合い、研修を深めるべきではないか！	
29	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	12	19	③幼保一元化施設について	幼保一元化は一緒にならないし目的がちがうので、もっと練った議論を幅広い関係者とすべきで公開してほしい。	
30	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	12	30	(2) 保育料等と減免制度の見直し	保育料は私立との不公平感というのはおかしいです。公立しか行かされない家庭があることを知らないとは思えませんが、何でもかんでも不公平感というのは変です。本来、公立幼稚園の存在目的は憲法で保障されている、教育を受ける権利を保障することではないでしょうか。現在の経済不況の中で親たちの生活は大変な状況です。市民の生活を支える自治体本来の役割からいっても公立幼稚園・保育所をなくすのではなく、増やすという立場に立ちきって頂きたく意見を申し上げました。	市立幼稚園と私立幼稚園の保育料の保護者負担に格差があることは事実です。そのため、保護者負担の公平性の観点から均衡を欠いていることや、受益者負担の考え方からも見直しが必要であると考えております。 しかしながら、改定の内容や見直しの時期などについては、教育委員会が、近年の厳しい経済状況や低所得者への負担を十分考慮するとともに、国の動向等を踏まえて慎重に検討することが望ましいと考えております。
31	第3章 1 効率的・効果的な運営についての方策	12	30	(2) 保育料等と減免制度の見直し	減免制度も一般的にはどれくらいの額、人数不明、そう簡単に受けられない。	八尾市立幼稚園の保育料の減免制度については、生活保護世帯、市民税非課税世帯、市民税所得割非課税世帯のすべてに対して全額免除（年額93,500円）となっております。また、平成21年度の減免件数は、186件となっております。
32	第3章 2 教育内容の充実についての方策	13	20	(2) 保護者や地域との連携について	私は、やお図書館に関する活動をしています。今年のテーマとして「移動図書館ふれあい号」とリンクした活動ができないか、現在24箇所のステーション現地調査を進めています。その中で気づいたことを提案というより思いつきとして述べさせていただきます。 ある幼稚園では、小学校の校庭に移動図書館車が乗りつけ、貸出サービスを行っています。現場を見たのは春休み中でしたので、幼稚園児の利用を確認できなかったのですが、きっとこのロケーションなら、紙芝居をしたりして子どもたちも寄って来たら楽しいだろうなという、印象でした。こんな出前サービスが月2回あるのです。使わない手は無いのではないのでしょうか。 同様のことが、いくつかの幼稚園でも近くにステーションが来ています。保育時間との関係で、BM（Book Mobile：移動図書館車）がくる時間には幼児は降園してしまっているという制約があるのかもしれませんが、親子連れで利用を呼びかけるなど、「地域資源」を活かしていく工夫や発想が求められています。行政が各分野で行っている「地域サービス」を教育内容に取り込むことで相乗効果を。 こういう事例は「各幼稚園ごと」に違います。画一性よりも「地域特性を活かす」再点検を。	幼児が地域との連携において様々な地域資源にふれあい、体験することが大切であるため、地域ごとで実施される子ども向けの行政サービス等の活用については、教育委員会が、取り組むべきであると考えております。

33	その他			<p>少子高齢社会に移行していく中での、地域・教育基盤の設定について 公立幼稚園では19園という施設数が過大となっていることが、検討の背景にあり、効率的な運営や子どもの育成支援環境として、ゆるやかに問題が顕在化してきていると思われます。しかし、今後何を基本的な枠組みとして「再編成を進めていくか」という点に議論が及んでいないように感じました。</p>	<p>審議会では、幼稚園における集団教育の重要性から、望ましい園の規模について検討を行いました。この望ましい園規模が、教育委員会において、今後の統廃合や再編を検討する際の基本となると考えております。</p>
34	その他			<p>継続して研究するチームと検討プログラム立案について 幼稚園は指導課、学校規模は教育政策課と2課にまたがって検証作業が進められたようですが、政策立案の手法として正しいのかが見直される必要があると感じました。何から整理して議論を進めるのかが、不明確なのではないかと思えます。このまま答申を放置するのではなく、教育委員会全体の3～5年の課題として研究・政策立案していく方針を固め、まずは行政素案を作る作業チームを委員会全体の合意・意思決定の元に組織していく必要があります。</p>	<p>審議会としても教育委員会に対し、審議経過や答申の内容を真摯に受け止め、短期的な計画のみならず、中・長期的な将来構想をもって、教育環境の一層の整備と向上に努めるよう望んでおります。</p>
35	その他			<p>今回の幼稚園審議会答申を評価するにあたり、最も悩むのは「公立」幼稚園に関するデータしか提示されず、子育て支援と幼児期の教育のあり方に共通する基本的なデータ（財政・人的数値）を欠いて、「再編統合」という長期的な方針転換が提起されていることです。少子化が進んでいること。10年先に14歳以下の人口が3万人を割り込むであろうことなどを考えると、過大になってしまった「幼稚園」を再編統合していくとの必要性は否定できません。しかし、総合基本計画で目標として「子どもや若い世代の未来が広がる八尾」を目標として掲げようとする市にとって、どういう選択肢が妥当なのかは、慎重に検討されるべき課題なのではないでしょうか。 幼稚園教育の対象年齢（3～5歳）に限定しないデータの提示について 民間の幼稚園経営と公立幼稚園の役割において競合関係にあり、事業存続をめぐる難しい問題が存在することは理解します。しかし公立幼稚園の運営基盤や通園領域を巡る議論をしていく上で、通常は官民を超えた八尾市内の利用者（3歳～5歳幼児）のエリア情報や、保育所・幼稚園・市外通園などの実情がデータとして存在しなければ、ニーズのありようが把握されないまま議論がされていると考えざるを得ないのではないのでしょうか。</p>	<p>審議会では、「八尾市立幼稚園のあり方」について教育委員会より諮問され、市立幼稚園全般の現状や課題について検討を行いました。検討にあたっては、市立幼稚園のデータだけでなく、私立幼稚園や保育所の園児数のデータ、また、八尾市児童福祉審議会の答申等も活用しております。その検討に基づいて、一定の方策を提案しております。教育委員会がこの答申に基づいて、今後の施策を推進するにあたっては、様々なデータを活用して、慎重に検討されることが必要であると考えております。</p>
36	その他			<p>幼稚園・保育所一元化の論議の前に縦割りの発想打破について 今回の答申検討過程で、教育行政と保育行政の「縦割りで施策検討」の限界や検討手法の制約に気づいておられると思います。答申を読ませていただいて「〇と〇の連携」とか「一元化」といった表現の随所で、こうした苦悩を感じました。 そうであれば幼稚園教育、とりわけ「公立幼稚園」の範囲で論議することの制約の多さや、いまや保育園通園児の存在と福祉サービス利用者ニーズを、論議のテーブルから外して議論することが困難になってきていることを明記すべきなのではないでしょうか。つまり、答申検討の設定枠が間違っていたことを単純に認めて、0歳から5歳までの子どもたちの養育環境の現状を示しつつ、公立幼稚園の役割と特性に踏み込んだ提案をしていくことが必要と思われるます。</p>	<p>0歳～5歳までの就学前児童全体の施策については、八尾市児童福祉審議会で審議されており、八尾市幼稚園審議会では、教育委員会からの諮問を受け、市立幼稚園が直面している課題に対して検討を行いました。審議においては、市立幼稚園の課題であるが、市立幼稚園のことだけではなく、広く就学前の子どものもことでも考える中で市立幼稚園のあり方を検討する必要があるとのことで、幼保一元化施設についても検討を行ったところです。</p>
37	その他			<p>遊休化する施設の再生利用をも視野に入れて 市政だより5月号の議会だよりでは、約500人の保育待機児が存在することや、民営化後の公立保育所施設をどうするのかなどの課題があることが指摘されています。同様の問題が「公立幼稚園」の中長期の再編過程にも生じてくることが予見されます。 そうであれば市街地の貴重な公共空間を生かして、民間・NPOレベルで進む子育て支援の活動にスペースや資源を提供することで、子どもの養育に資する地域資源を活用する道筋なども模索していくことになるのではないのでしょうか。 どうぞ慎重に、大きな枠で基礎的データを把握し、市民に実情を提示しつつ長期の方針を検討していただくことを希望するものです。 検討には制約や背景があり、そのことを明示しつつ次の課題を示していくことが長期プラン検討をゆだねられた方々の責務でもあると感じていますので、お願いします。</p>	<p>市立幼稚園廃園後の施設の活用についてのご提案ですが、施設の活用につきましては、市が関係部局や地域と調整をして決めることであるため、審議会の審議の範疇ではありません。しかしながら、廃園後の施設については、地域の貴重な公共財産であるので、地域住民や子どもにとって有効に活用されるよう、教育委員会が基本方針や実施計画の中で示す必要があると考えております。</p>

38	その他			<p>特定のページについてのコメントではありません。</p> <p>八尾市の幼稚園問題の大前提としての</p> <p>①八尾市立幼稚園5園を統廃合したときの、地域や父母の声やうごきがあったことをどう踏まえているのか。</p> <p>②その5園の統廃合によってどういうことが起こったのか。</p> <p>③あの当時問題になった「希望者全員入園の願い」はどうなったのか全く触れられていません。今までをきちんと総括すべきだと考えます。</p> <p>④過去をふり返っても重大なこの問題を、この「パブリックコメント」ひとつで「市民の声を聞きました」とされることのないように求めます。</p>	<p>過去に「幼稚園問題協議会」からの提言を受け、5園の統廃合を実施されたことは審議会として承知しております。</p> <p>審議会としましては、さらに現在の少子化に伴う園児数の減少等の課題に対して教育委員会より諮問を受け、検討を行ったものであります。</p> <p>なお、パブリックコメントにつきましては、現在、審議している内容を多面的に検討する上で必要があったと考えております。</p> <p>また、統廃合や再編を進めるにあたっての留意点として、「行政としての説明責任を十分果たすために、保護者や地域住民に対して説明会を開催し、統廃合や再編の必要性や基準、スケジュール等について理解と協力を求めていくことが必要である。」と提言しており、地域住民や保護者の声を十分聞くことが必要であると考えております。</p>
----	-----	--	--	---	--